

平成 29 年 8 月 27 日、8 月の最終日曜日に、毎年恒例の奈良三田会家族会 2017 を開催しました。本年度は、大阪・泉州方面に赴き、総勢 19 名の塾員およびご家族にご参加頂きました。

当日は、天候にも恵まれ、また、参加された皆さまのご協力のもと、終始タイムスケジュール通りのスムーズな進行となりました。

予定より早く到着した田尻港では、日曜午前で開催されている「日曜朝市」を愉しむ時間もとることができ、新鮮な海産物のお土産を早々と手配される会員さんもいらっしゃいました。

午前の目玉である漁業体験では、漁師さんとともに、あらかじめ仕掛けられたかごや網の引き上げを体験し、タコやアナゴのほか、様々な種類の魚を引き揚げることができました。魚が引き上げられるたびに、線上に歓喜の声があがりました。

漁業体験のあとは、対岸の関西国際空港の近くまで船で近づき、普段は見ることのできない、海側から見る関空での飛行機の離発着の様子を間近で見ることができました。なかでも、誘導灯の横に停泊し、滑走路に向かい着陸していく飛行機を真上に見上げる迫力には、その轟音と飛行機のスピードに自然と歓声が上がりました。

関空のクルージングを終え、港に戻った後は、漁業体験の獲物を使った海鮮バーベキューで、会員の親睦を深めました。獲れたてのタコやアナゴのフライ、タイや様々なお魚のお刺身、ゆでダコ等食べきれないほどの食材が並び、食べきれなかった分はお土産として持ち帰りました。

その後関空に場所を移して、本日のメインイベントである「関空バックヤードツアー」に出発しました。本ツアーは、空港のオフィシャルガイドが自分たちのバスに乗り込んで案内をしてくれるという一風変わった形式で行われます。バスが変わることがないため、くつろいだ雰囲気でも楽しむことができました。展望ホールを出発し、第 2 ターミナル、第 1 ターミナルと空港島をバスで移動し、厳重な警戒をされているゲートをくぐり、普段は入ることができない「航空保安区域」に入り、機内職工場、国際貨物区域、給油タンク施設等の施設を車内から見学しました。

その後、トラック待機場場では、航空保安区域内ではあるもののバスを降りての見学が認められ、滑走路を飛び立つ飛行機の轟音を肌で感じつつ間近で見ることができました。また、夜間でも目立つように黄色に塗装された化学消防車が停車している様子も見ることができました。

離陸する機体の中には、沖縄美ら海水族館とのコラボ企画で、ジンベエザメを機体にデザインした「ジンベエジェット」もあり、大いに盛り上がりました。本来はもう少し早い時間のフライトだったようですが、出発が遅れ、見学の時間に離陸となったとのことで、非常にラッキーな体験をすることができました。

充実の行程を終え帰路につき、予定時刻通りの解散となりました。参加いただいた皆さまからは、楽しかった、良い経験ができたとの感想をいただくことができ、11 月 25 日、26 日に「関西合同三田会 in 奈良」を控え、会員の結束をより深めることができました。

末筆にはなりますが、共同幹事として家族会の企画・運営に大きく貢献いただいた山縣君に心より感謝申し上げます。

レポート：植田 仁士(平7商)